

作曲、演奏、研究などの分野でマルチに活躍する英国在住の若手・中堅日本人音楽家が増えている。多様な価値観が混在し、世界各地に飛び回れる環境が「国際人」の活動を後押しする。

英国、東京、フィリピン、京都、アフリカのマガガスカルやモリシャス。英国在住のヒアニスト・作曲家、平井元喜(46)は9月下旬・12月上旬、世界各地でコンサートを開いた。

これまでに演奏で訪れた国はアフリカや中東など60カ国以上。「世界の人人々に音楽を届けるのがライフワーク」と語る。

## 作曲・演奏・先人研究…、マルチな才能



英国でのリサイタルに臨む平井元喜(9月)

にした公演を開催。「日本では英国の作曲家と言えばエルガーとホルストで音楽のイメージは種やかな田園。そんな固定したイメージだけでは磨けない魅力がある」。現在の関心はウォーン・ウィリアムズで、彼の自伝の翻訳も計画中だ。「研究があってもその演奏水準も高まる」と両立に意欲的だ。クラシックの本場はドイツ、オーストリア、イタリアで、英国は亜流とみられがちだ。しかし、首都ロンドンにはロックやジャズなどの多くの音楽家が訪れる世界屈指の音楽都市、国際都

市で、「自国の音楽家や特定ジャンルにこだわらない音楽ファンが多い」(小町)。

自作の初演はパリ・ロンドン在住の作曲家、藤倉大(41)も「国際人」の視野を持つ音楽家といえる。藤倉は15歳で渡英し、作曲を学んだ。オペラ、管弦楽曲、ピアノ曲などを幅広く作曲し、特に欧州で高く評価される。10月31日に東京芸術劇場(東京・豊島)で日本初演を果たした藤倉のオペラ「ソラリス」も2015年の初演がパリのシヤンゼレ・オペラハウスとしてのも併せ持ち、日本で「ボンクリ・フェス」という自主企画の音楽祭を昨年始めた。今年9月下旬に東京芸術劇場で開演、出演者は交流サイト(SNS)で自ら世界中から音楽家を集めた。「声を掛けたいから」に集まった上、懐かしさを英BBCウェールズ交響楽団(現BBCウェールズ首席指揮者を務めるなど)、英国音楽に詳しい指揮者の尾高忠明は「日本人の私が受け入れるのが英国」と話す。国際国家らしい進取の精神と鋭い感覚が、在英の日本人音楽家にも届く。(岩崎貴行)

# 駆ける在英日本人音楽家

族音楽にこそ人々の特色が出る。楽譜に縛られず、原点としての音を追求する」祖父が作曲家の平井康三郎と、父がチェロ奏者の文一朗という音楽一家に生まれた。1996年に慶応文学部哲学科を卒業後、英国王立音楽院に入学。20年には英国で暮らす。英国には、インド、アフリカ、中東などからの移民が多い半面、伝統的に英国に住み続ける人も少なくない。「様々な価値観の中で暮らすと、自然と音楽も多様化される」。北米や中東、アフリカなどへのアクセスもよく、世界を飛び回りやすい環境が、

「取手」の研究で修士号を取得。とり上げたい作曲家の研究は英国でも深掘りされており、北米や中東、アフリカなどへのアクセスもよく、世界を飛び回りやすい環境が、

62・19934年)の晩年を弟子が描いた「ソング・オブ・サマー」(アルテック・パブリッシング)を邦訳した。同年11月には王子ホールでアフリカス(18

2018年(平成30年)12月11日(火曜日)



アフリカス(18)と平井元喜(9月)

「取手」の研究で修士号を取得。とり上げたい作曲家の研究は英国でも深掘りされており、北米や中東、アフリカなどへのアクセスもよく、世界を飛び回りやすい環境が、

62・19934年)の晩年を弟子が描いた「ソング・オブ・サマー」(アルテック・パブリッシング)を邦訳した。同年11月には王子ホールでアフリカス(18

2018年(平成30年)12月11日(火曜日)